

特集

土木遺産Ⅻ

～北米発展の礎となった土木技術～

アメリカは1776年7月4日の独立宣言の後、植民地から解放され独自の道を歩んだ。

一方、カナダは1867年にイギリスの自治領となり、1931年に事実上独立国家となった。

そして現在、世界第1位の経済大国となったアメリカと第11位のカナダ。その発展にはインフラ整備が大きな役割りを果たして来た。

五大湖を結ぶ運河、大都市の発展を支えた長大橋やダム、そしてゴールドラッシュに沸いた鉄道など。

今でも使われているこれらの施設を巡ることで、北米大陸発展の礎となった土木技術と人々の英知を紐解きたい。

- ① ブルックリン橋 (アメリカ、ニューヨーク) / 佐々木勝
- ② ロイヤルゴージ・ルート鉄道 (アメリカ、キャノンシティ) / 初芝成應
- ③ ウェランド運河 (カナダ、セントキャサリン) / 川崎謙次
- ④ フーバーダム (アメリカ、ラスベガス郊外) / 茂木道夫
- ⑤ ケーブルカー (アメリカ、サンフランシスコ) / 近藤安統



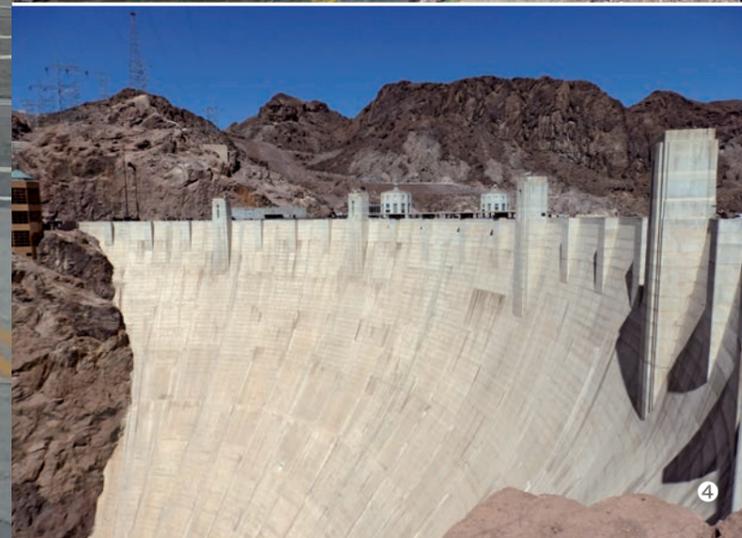
①



②



③



④



⑤